

## 発刊にあたって

淑徳大学学長 長谷川 匡俊

このたび、2006（平成18）年度版「淑徳大学年報」を発刊する運びとなりました。本年度は、大学改革4年目のいわば完成年度ともいうべき年であり、同時に、第三の学部となる看護学部看護学科の設置申請を経て、認可が得られ学生募集・入試が実施された年でもありました。本学と国立病院機構「千葉東病院」との学官連携による全国初の看護学部の校舎が、同病院の敷地内に建設されたのでした。

また、「福祉の淑徳」の強みを「こどもの世界」へ（こども福祉コース、こども心理専攻、こども教育専攻の新增設）と広げ、新たに幼稚園教諭・小学校教諭免許課程の設置を果たし、建設中であった社会福祉現場実習教育の拠点施設「淑徳共生苑」（姉妹法人）も年度末に竣工いたしました。このように新規事業の相次ぐ立ち上げには歴史的な一頁を飾ることができましたが、残念ながら学生募集の方は看護学部を除いて厳しい結果を突きつけられ、教育改革の不徹底を思い知らされたと思います。

一方、看護学部と淑徳共生苑の開設を前にして、この二つと総合福祉学部のキャンパスを結ぶ「淑徳ニュートライアングル」の構築に向けたプロジェクトチームを発足させました。本学の教育・研究・社会貢献のそれぞれに、新しい価値の創造をもたらすよう期待しております。

この年、学長として「福祉の淑徳」の育成人材像につき、以下の三つの柱を掲げました。  
①福祉マインドをそなえた実践力の豊かな人材の育成。  
②利用者と共に歩む社会福祉及び関連領域の専門職者の育成。  
③福祉社会の建設を担う共生人材の育成。  
ここに、学祖の建学の発展的継承があると信ずるからであります。

おわりに、本年報の執筆・編集を担当された役職者ならびに大学自己点検・評価委員会の各位に感謝の意を表します。

2008（平成20）年2月